

志賀町における「English Camp in Noto」

キッズサマーキャンプ2018 IN くまの・英語教育プログラム

団体名 人文学部 田中富士美ゼミ

はじめに（背景・目的・目標）

能登の人口の減少、過疎化の緩和にむけてはそれぞれの行政、経営者、商工会議所、民間団体が協力し、県の政策も含めて真摯に取り組まれていることは言うまでもないが、中能登、志賀町ではとくに民間団体が各地区の横並びでの連携と住民の意識の喚起のために様々なプロジェクトを行っている。特に全国各地から大学生や留学生を色々な形で招聘した事業を展開し、町のあらゆるアドバンテージを活かして住民を巻き込んだうえ互いに認知し合い、魅力的な町づくりへと活性化のきっかけにする努力がなされている。地元の小学生の夏休みに地元の小学生のためのキャンプ（合宿）の形で本ゼミの学生による「小学生の英語教育」を提案したところ、「くまの地域づくり協議会」に「継続性をもって実施してほしい」との積極的な事業推進の回答をいただき、志賀町の活性化と人文学生の英語スキルが活かされる相互協力の場としてこのプロジェクトを実行したいと考え、実施に至った。

活動内容

8月中旬に2泊3日のキャンプ形式、下旬に3日間のキャンプの中1日の集中プログラムとする英語教育プログラムを実施した。以下にプログラムの詳細の流れを記す。

イントロダクション、アイスブレイクアクティビティ、アルファベットカードゲーム、自分のことを話そう、ワークシート、英語の歌、ダンス、早口言葉、英語の絵本読み聞かせ、単語カード練習、自分



のことを話す最終練習、自己紹介プレゼンテーション

これらは、最後に設定した自己紹介プレゼンテーションの完成を目標として、その表現に関することをすべてのアクティビティに盛り込んで作りこまれている。学生はこのプランの作成と共に、教材を製作し現場にもちこんだ。両日程合わせて25名の小学生への英語教育活動を実施し、交流がなされた。

成果、結果の考察

学生は、プロジェクトとしての英語教育の実践のための、プランでの学修効果（教材づくり、メソッド研究等）、また地域への深淵な理解、地元住民との交流、そして当然だが英語スキルのアウトプットの機会を得た。地域に対しては、本学人文学部生のグローバル人材としての認知、地元住民（小学生、スタッフ、保護者、地域住民）の皆さんとの交流があげられるであろう。

今後の課題、展望

本学学生が地域の小学生に英語教育の面で協力することは初めての例であると認識している。本年度は第1回として開始、次年度以降も継続し、地域を広げていくことも検討していきたい。実際に2019年度も「くまの地域づくり協議会」に継続の依頼を受け検討中である。また、金沢市立小坂小学校 英語活動サポート実施が決定した。「英語と異文化コミュニケーション力のある人材」として、2018年7月発足の金沢文化スポーツコミッションの事業における言語対応協力依頼もお受けした。

学生が学修の成果とその「為人」を地域連携に寄与するものである。

